

金子窯 ~ 多々良焼 ~



金子窯の工房だよ。木の香りがするね。



金子窯の歴史

江戸時代後期に、焼き物がさかんになってきました。この時代は、漁業もさかんで、たこをとるための「たこつぼ」がいっぱい作られていました。多々良地区も何件も工房がありました。それで他の工房といっしょにつくりました。いっしょにつくることで、いっぱい作られました。



しかし、太平洋戦争があり、終わると何件もあったはずが、二件に減ってしまいました。昭和40年代になると、そのころはまだ、プラスチックがなかったので、金子窯が作った焼き物がたくさん売れました。でも、焼き物が重いということで、買う人が少なくなってきました。と、ということで、「たこつぼ」などの産業から「日用食器」にかわって、今も作られているということです。



これが今の窯だよ。値段は、 万円なんだって。大きいなー。窯の本当の値段は、教えられないんだってー。



金子窯の焼き物の特長は、貝の模様があるんだよ。きれいだね。



焼き物は、「けろくろ」というもので作っているんだね。金子さんの焼き物を作る姿は、かっこいいね。

～作り方のしょうかい～

土に水分をいっぱいふくませる。

けろくろで形を作る。

一週間～二週間かんそうさせる。

素焼きをする。(800 くらい)

焼き物に絵をかく。

ゆうやくをつける。

本焼きをする。

ひび割れチェック。

完成。



金子窯の見学は、楽しかったよー。
金子さん、いろいろなことを教えて下さり、ありがとうございました！